

# 高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和6年度国庫補助事業 —

2025年3月

高松市教育委員会



## 例 言

- 1 本書は、高松市教育委員会が令和6年度（一部、令和5年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
- 2 本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として令和5年12月から令和6年11月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査について収録した。なお、令和6年12月以降の実施分については、次年度に報告する予定である。
- 3 調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 船菜 紀子・山元 敏裕・高上 拓・梶原 慎司・品川 愛・宮田 匡が担当した。
- 4 本書の執筆は、船菜・山元・高上・梶原・品川・宮田が行い、編集は同会計年度任用職員 磯崎 福子が担当した。
- 5 本書の挿図として、高松市都市計画図2千5百分の1を5千分の1、又は2千分の1に改変して使用した（調査地位位置図内の網かけは、調査対象地を示し、色の薄い部分は埋蔵文化財包蔵地を示す）。
- 6 本書のうち標高値を示したものは海拔高を表し、座標は国土座標IV系（世界測地系）に換った。
- 7 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会にて保管している。

## 目 次

### 第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和5年12月～令和6年11月）

1. 三条町悪所地区	1	21. 国分寺町池下地区	12
2. 円座町上円座地区	1	22. 川島東町神子屋敷地区	12
3. 多肥上町本村地区	2	23. 元山町下香伯地区	13
4. 御厩町正勝地区	2	24. 十川東町城上地区	13
5. 条里跡	3	25. 太田下町須川地区	14
6. 三谷町下所上地区	3	26. 条里跡・横井城跡	14
7. 条里跡	4	27. 史跡天然記念物屋島	15
8. 飯田西7号塚	4	28. 史跡天然記念物屋島	15
9. 日暮・松林遺跡	5	29. 川島東町北山下地区	16
10. 国分寺町国分地区	5	30. 花園町花園地区	16
11. 林町平塚地区	5	31. 林町亀ノ町地区	17
12. 多肥下町瓦礫地区	6	32. 伏石町鹿蹄地区	17
13. 雑賀城跡	6	33. 条里跡	18
14. 筑城城跡	7	34. 多肥上町北原地区	20
15. 条里跡	7	35. 西植田町中土居地区	20
16. 条里跡	8	36. 伏石町狂塵地区	21
17. 条里跡	8	37. 条里跡	21
18. 牟礼町中山田地区	9	38. 太田下町東横田地区	22
19. 太田下町藤ノ木地区	9	39. 西ハゼ町清水地区	22
20. 木太町小原地区	11	40. 十河城跡	23

- 1 三条町恵所地区
- 2 円座町上円座地区
- 3 多肥上町本村地区
- 4 御殿町正勝地区
- 5 条里跡
- 6 三谷町下所上地区
- 7 条里跡
- 8 飯田西7号塚
- 9 日暮・松林遺跡
- 10 国分寺町国分地区
- 11 林町平塚地区
- 12 多肥下町瓦礫地区
- 13 雑質城跡
- 14 筑城城跡
- 15 条里跡
- 16 条里跡
- 17 条里跡
- 18 牟礼町中山田地区
- 19 太田下町藤ノ木地区
- 20 木太町小原地区
- 21 国分寺町池下地区
- 22 川島東町神子屋敷地区
- 23 元山町下香伯地区
- 24 十川東町城上地区
- 25 太田下町須川地区
- 26 条里跡・横井城跡
- 27 史跡天然記念物屋島
- 28 史跡天然記念物屋島
- 29 川島東町北山下地区
- 30 花園町花園地区
- 31 林町亀ノ町地区
- 32 伏石町鹿籠地区
- 33 条里跡
- 34 多肥上町北原地区

- 35 西植田町中土居地区
- 36 伏石町担麩地区
- 37 条里跡
- 38 太田下町東横田地区
- 39 西八世町清水地区

40 十河城跡

第1図 調査地位位置図

## 第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和5年12月～令和6年11月）

### 1. 三条町悪所地区

- 1 所在地 高松市三条町
- 2 調査期間 令和5年12月18日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 マンション建設工事
- 5 調査の概要

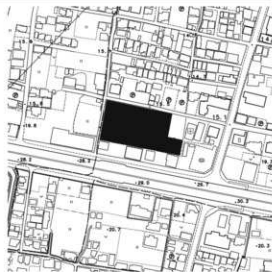
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。合計7本の調査区を設定した。調査地全域で、湧水の認められる砂礫層の上層に粗砂・シルト・粘土の順に堆積が認められた。土色にはバリエーションがあるが、いずれも河川等の氾濫に伴う低地の埋没過程を示す堆積層と考えられる。溝の可能性のある箇所が1カ所確認された以外に遺構は確認されず、遺物は皆無である。

なお、これに類似する状況は南側に近接する上天神遺跡の発掘調査（8・9区）でも確認されており、整合的である。

以上を整理すると、対象地は旧河道やその氾濫によって埋没した低地に相当すると評価するのが妥当である。明確な遺構・遺物は確認されなかった。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第2図 調査地位置図（1/5,000）

### 2. 円座町上円座地区

- 1 所在地 高松市円座町
- 2 調査期間 令和5年12月19日～12月20日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 分譲住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。対象地は水路を挟んで東西に分断されており、東半に4本、西半に7本のトレンチを設定した。対象地の地形を概観すると、田園風景の広がる比較的平坦な平野部に相当する。その中でもやや微細にみると、南側から北側に向かってやや下り、中央の水路を中心として東西にそれぞれやや高くなる。中央の水路は旧河道を踏襲したものと推測されたため、旧河道が中央に位置する旧地形を想定して調査を実施した。

調査の結果、遺構は旧河道の可能性のある落込みを確認したほか、溝を確認した。ただし、いずれも遺物が伴わず、時期は不明である。

以上をまとめると、遺構は溝等が確認できたが密度は高くなく、遺物は全く出土しなかったため、遺構の形成時期は不明である。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第3図 調査地位置図（1/5,000）

### 3. 多肥上町本村地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和5年12月26日～12月27日
- 3 調査担当者 高上拓・中西克也
- 4 調査の原因 街路事業
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、本市道路整備課と協議の上、試掘調査を実施した。道路整備予定地に所在する墓地の一部に相当し、塚状の高まりを有する。塚の表面は石積みやコンクリートによって舗装されており、これを東西、南北に断割して調査を実施した。調査の結果、東西トレンチ、南北トレンチともに現在の塚状の高まりは多量の円礫を集積したことによって形成されたことが明らかとなった。構造上の特性から、壁面が崩落し危険であったため、重機で掘削し人力での精査は最小限に留めた。円礫の下層から、近世以降の遺物が出土したため、塚状に高く礫が盛り上げられたのは近世以降であることがわかる。堆積状況から、塚が複数次にわたって積み増された状況も確認できる。なお、地山である礫層も確認しており、地山起源の礫層を集積することで塚(墓地)が形成されたものと考えられる。

以上をまとめると、塚は近世以降に形成されたもので、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第4図 調査地位図(1/5,000)

### 4. 御厩町正勝地区

- 1 所在地 高松市御厩町
- 2 調査期間 令和6年1月22日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 工場建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「御厩4号塚」に近接する。事業者から依頼を受け、試掘調査を実施した。調査に当たって6本の調査区を設定した。

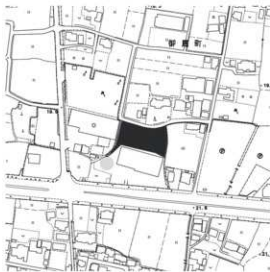
成果として、対象地の東半で検出した大型の溝SD1が特筆される。最大幅約6m程度、深さ0.7m程度と規模が大きく、また多量の遺物を包含する。調査時に確認した遺物は土師器鍋、すり鉢、須恵器碗、甕等があり、小規模な掘削範囲ながらコンテナ1/2箱程度の出土量である。いずれも中世の範囲内で理解でき、近世以降の遺物は含まない。

対象地の西半では、東半と同一の遺構面が確認できる範囲と、礫層の標高が高く、遺構面相当層が確認できない範囲とが交錯する。比較的起伏に富んだ堆積状況であったこと、部分的には平坦化による削平が及んだ可能性が指摘できるが、遺構・遺物は確認できなかった。

以上をまとめると東半の範囲について、埋蔵文化財の包蔵状況が確認できた。

#### 6 まとめ

対象地は新規の埋蔵文化財包蔵地と認められ、字名を採って「正勝遺跡」として登録された。今後、当該地における開発行為に対して、適切な保護措置が必要である。(高上)



第5図 調査地位図(1/5,000)

## 5. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町吉光
- 2 調査期間 令和6年1月23日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.4mの深さで黄褐色細粒砂混じりシルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、中世以前に遡る遺構・遺物は認められなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第6図 調査地位置図 (1/5,000)

## 6. 三谷町下所上地区

- 1 所在地 高松市三谷町
- 2 調査期間 令和6年2月28日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 分譲住宅造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「三谷下所上遺跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け試掘調査を実施した。試掘対象地は周辺部の開発範囲に含まれるが、既存建物の影響で試掘調査が行えていなかった箇所である。

事業者の依頼を受け、試掘調査を実施した。調査に当たっては、対象地に1カ所の東西トレンチを設定した。

成果として、遺構の埋土から古墳時代の不明遺構を1基、中世のピットを2基、近世以降と考えられるピット2基、不明遺構2基を確認した。

試掘調査の結果、出土遺物は少ないものの、周辺の試掘調査結果と同様に調査対象地全域から古墳時代から近世の遺構を確認した。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地と認められ、隣接する「三谷下所上遺跡」として追加登録し、今後当該地における開発行為に対して、適切な保護措置が必要である。(山元)



第7図 調査地位置図 (1/5,000)

## 7. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町池内
- 2 調査期間 令和6年2月28日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2mの深さで黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、中世以前に遡る遺構・遺物は認められなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第8図 調査地位位置図 (1/5,000)

## 8. 飯田西7号塚

- 1 所在地 高松市飯田町
- 2 調査期間 令和6年3月7日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 個人住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「飯田西7号塚」に該当する。調査地南端が塚の一部に該当するが、現状では塚状の高まりは見られない。事業者からの試掘依頼を受け、3月7日に試掘調査を実施した。

調査に際して3本のトレンチを設定した。調査地内の基本層序は造成土、甘土、地山(黄褐色シルト層)である。調査に当たり、塚の規模を把握するため、包蔵地内を南北に横断するようにトレンチを設定した(1トレンチ)。

その結果、1トレンチは地表下0.8mで甘土、1.3mで地山が検出され、塚の盛土などは確認されなかった。2トレンチでは1トレンチの地山に相当する高さで攪乱が検出された。攪乱の深さは0.4m以上に及ぶ。攪乱からは近代以降の遺物が出土している。3トレンチでは地表面から1.3mの深さで地山が検出された。遺構・遺物は出土していない。

### 6 まとめ

対象地のうち、包蔵地に該当する範囲については、本確認調査をもって保護措置を完了したと考えられる。包蔵地外については周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第9図 調査地位位置図 (1/5,000)



## 9. 日暮・松林遺跡

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和6年3月18日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 店舗新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「日暮・松林遺跡」内に位置する。調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.6～0.7mの深さで黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、中世以前に遡る遺構・遺物は認められなかった。ただし、調査面積が狭小であるため、今後当該地において新たに工事等が実施される場合は適切な保護措置が必要である。(梶原)



第10図 調査地位置図 (1/5,000)

## 10. 国分寺町国分地区

- 1 所在地 高松市国分寺町国分
- 2 調査期間 令和6年4月13日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 分譲住宅造成工事
- 5 調査の概要

対象地は特別史跡「讃岐国分寺跡」に近接する。調査では、3本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.3mの深さで約0.1～0.2m堆積したにぶい黄褐色中粒砂混り細粒砂層(I層)、その下層ににぶい黄褐色シルト層の地山(II層)が認められた。I層上面では、時期不明のピット15基を検出した。ピットの埋土は褐色シルトで、15基全てで完掘したが出土遺物は時期不明の土器片1点のみだった。II層上面では、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第11図 調査地位置図 (1/5,000)

## 11. 林町平塚地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和6年4月15日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 施設建築工事
- 5 調査の概要

対象地は参考地「弘福寺領田園定地」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.3mの深さでにぶい黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面では、時期不明の溝1条を検出した。溝は、幅約1m、深さ約0.4mで、埋土は黒褐色シルトの単層である。完掘したが遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第12図 調査地位置図 (1/5,000)

## 12. 多肥下町瓦礫地区

- 1 所在地 高松市多肥下町
- 2 調査期間 令和6年4月11日～5月7日
- 3 調査担当者 梶原 慎司・宮田 匡
- 4 調査の原因 集合住宅新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「北原遺跡」に隣接する。調査では、10本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2～0.3mの深さで褐灰～黒褐色シルト層があり、その下層には部分的に暗褐色礫混じり粗粒砂層がみられた。そのため、当該地は凹凸した湿地状の土地に黒泥化した褐灰色～黒褐色シルト層が堆積した場所である、と考えられる。褐灰色～黒褐色シルト層には8～14世紀の土器が含まれていることから、当該地が少なくとも14世紀までは安定的な地盤ではなかったこと、そしてこの層の上面に形成された遺構は14世紀以降に形成されたことがわかる。

褐灰色～黒褐色シルト層上面では、溝4条、ピット2基、不整形遺構1基を検出した。溝は埋土が黒褐色シルトと褐灰色シルトのものがあり、どちらも一部掘削したが時期が判明する遺物は出土せず、詳細な時期は不明である。ピットは対象地の北側で11基、西側中央部で10基検出した。北側のピットは埋土が浅黄色シルトで、7基完掘したが時期が判明する遺物は出土せず、詳細な時期は不明である。西側中央部のピットは埋土が床土と同じ褐灰色シルトで、埋土の色調から近世以降と考えられる。不整形遺構は一部断ち割りを行ったが、人為的遺構か自然遺構か判断できなかった。

### 6 まとめ

対象地では確実に中世以前に遡る遺構・遺物は認められなかったため、周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第13図 調査地位図(1/5,000)

## 13. 雑賀城跡

- 1 所在地 高松市番町
- 2 調査期間 令和6年5月9日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 解体工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「雑賀城跡」に位置する。事業者からの試掘依頼を受け、確認調査を実施した。調査に当たり1本のトレンチを設定した。

1トレンチでは地表下1.5mの深さで地山を確認し、地山上面で1本の溝を検出した。SDIは幅1.3m以上、深さ0.6m以上であり、溝の肩は段を持ちながら落ちる。SDI埋土からは須恵器壺、土師器杯が出土した。時期は古代から中世と考えられ、SDIは雑賀城跡の堀である可能性がある。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、今後対象地で開発行為が行われる場合には適切な保護措置が必要である。(品川)



第14図 調査地位図(1/5,000)

## つづきじょうあと 14. 筑城城跡

- 1 所在地 高松市鶴市町
- 2 調査期間 令和6年5月11日
- 3 調査担当者 品川 愛・山元 敏祐
- 4 調査の原因 プレハブ新設工事
- 5 調査の概要

対象地は一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「筑城城跡」に位置する。事業者より確認・試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。

当該地の基本層序は花崗土、攪乱、I層（黄褐色シルト層（地山1））、II層（黄色シルト層（地山2））であり、I・II層上面（地表下約0.5～0.6m）が遺構面となる。I・II層上面では溝、土坑、ピット等多数の遺構を検出した。遺構の埋土は緑灰色系のシルト～極細砂（埋土1）と褐灰色系のシルト～極細砂（埋土2）の大きく2種類が見られ、埋土2の遺構が埋土1の遺構を切る。出土遺物については、溝の埋土からは磁器片が1点出土したが、小片のため器種や時期は不明である。

各遺構の時期に関して、埋土2は筑城城跡の中世遺構の埋土と同じであり（高松市教育委員会1999『筑城城跡』）、同時期の遺構である可能性が高いと考えられる。また、埋土1の遺構は切り合い関係から埋土2の遺構以前の時期が考えられる。

### 6 まとめ

対象地では中世と考えられる遺構が出土した。従って当該地を周知の埋蔵文化財包蔵地「筑城城跡」として追加登録し、今後当該地における開発行為に対して、適切な保護措置が必要である。（品川）



第15図 調査地位置図 (1/5,000)

## じょうりあと 15. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和6年5月14日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 木造住宅建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。対象地では地表下0.2～0.3m程度の深さで地山（黄色シルト層）が確認された。地山上面で遺構の検出を行い、2トレンチでピット1基を検出した。遺構から遺物は出土しておらず、時期は不明である。

### 6 まとめ

対象地では中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。従って本確認調査で対象地内における埋蔵文化財の保護措置を完了した。（品川）



第16図 調査地位置図 (1/5,000)

## 16. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和6年5月15日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 医療介護施設建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。事業者からの依頼を受け確認調査を実施した。

対象地に北側南北トレンチ、南側東西トレンチの2本のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。確認調査の結果、地表面から約0.30～0.35mで遺構面に達する。確認した遺構は東西方向の溝1条のみで、磁器片を含むことから近世以降の時期が考えられる。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。従って本確認調査で対象地内における埋蔵文化財の保護措置を完了した。(山元)



第17図 調査地位置図 (1/5,000)

## 17. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和6年5月16日～5月17日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 工場建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。事業者からの依頼を受け確認調査を実施した。

対象地に4本のトレンチを設定し遺構・遺物の確認を行った。確認調査の結果、現地表面から0.15～0.2mで遺構面に達した。各トレンチでそれぞれ遺構を確認した。確認した遺構は、遺構の繋がりが溝2条である。確認した溝のうち、南北溝の規模は幅0.4m、深さ0.15mである。その東側で確認した溝は遺構の検出状況から平面L字形を呈するものと想定される。南北部分では幅0.4m、深さ0.15m、東西部分では幅0.9m、深さ0.08mと前述の南北溝と遺構の規模は異なるが、溝の埋土、遺構の検出状況からは、これ以外の遺構の繋がりは想定できないことから同一遺構と考える。遺物には中世の土師器等が出土した。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。今後対象地における事業の実施に当たっては適切な保護措置をとる必要がある。(山元)



第18図 調査地位置図 (1/5,000)

## 18. 牟礼町中山田地区

- 1 所在地 高松市牟礼町大字原
- 2 調査期間 令和6年5月18日
- 3 調査担当者 品川 愛・山元 敏裕
- 4 調査の原因 道路拡幅工事
- 5 調査の概要

当該地は牟礼町大字原中山田に位置する。事業者からの試掘依頼を受け、確認調査を実施した。当該地の基本層序は甘土、黄褐色極粗砂層(土器の小片混じる)、青灰色シルト質極細砂層(地山1)、灰褐色極粗砂層(地山2)である。地山1の上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

## 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第19図 調査地位置図 (1/5,000)

## 19. 太田下町藤ノ木地区

- 1 所在地 高松市太田下町
- 2 調査期間 令和6年5月22日～5月23日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

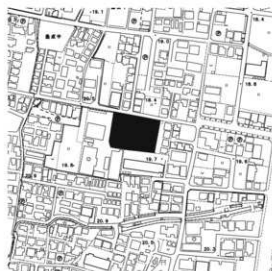
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。試掘調査は対象地に4本のトレンチを設定し、第1トレンチは南北方向、第2～4トレンチは東西方向に設定した。

## 第1トレンチ

調査対象地の東の筆に対して設定した南北トレンチである。耕作土の下に深さ0.15mの褐色シルトを確認した。この層は奈良時代の須恵器、土師器を含む包含層である。包含層を除去すると、ぶい黄橙色シルトの地山上に遺構を確認した。確認した遺構は溝4条、掘立柱建物を構成すると考えられるピット3基を確認した。ピットのうち、最も南で確認したピットからは根石を確認した。溝4条は黒褐色シルト(SD3)と褐色シルト(SD1、2、4)の2種類の埋土をもつものに分かれる。遺構の埋土により時期が分かれそうである。遺構の時期は出土物から、概ね黒褐色シルトが弥生時代、褐色シルトが奈良時代であろう。

## 第2トレンチ

対象地の南西部に設定した東西方向のトレンチである。耕作土、床土以下に第1トレンチと同様に奈良時代の包含層である褐色シルト、その下に弥生時代の土器を含む旧河道を確認した。旧河道は第2トレンチの東端から5mで東肩を確認した。旧河道の埋土は黒褐色シルトで埋土の深さは最も深い部分で0.25mと浅い。



第20図 調査地位置図 (1/5,000)

### 第3トレンチ

対象地の西端に設定した東西トレンチである。第2トレンチで確認した旧河道の西側への広がりを確認するために設定したトレンチである。土層堆積は第2トレンチと同様であり、トレンチ中央部で旧河道の東肩を確認した。東肩から約1.5m東で旧河道と同じ黒褐色シルトの埋土をもつ幅0.8m、深さ0.1m以上の溝1条を確認した。溝の上部では、1個体分の弥生土器を検出した。遺構の確認状況から旧河道に関連する溝であると想定される。

### 第4トレンチ

対象地の北端中央部に設定した東西トレンチである。第1トレンチで確認した遺構の広がりを確認する目的で設定したトレンチである。地山がにぶい黄褐色砂礫で一部には川原石が多数認められ、遺構の認定が十分でなく、北壁沿いにサブトレンチを設定し遺構の確認を行った。トレンチ掘削により埋土中から大きな破片の弥生土器を確認し、土層を詳細に観察したところ、直径約6m、深さ約0.2mの竪穴建物であると考えられる。土層埋土は黒褐色シルトの単層である。

試掘調査の結果、各トレンチで遺構・遺物を確認した。各トレンチでの遺構・遺物の確認状況から対象地の北東部は、微高地で弥生時代、奈良時代の集落跡であると想定される。一方、対象地の南西部は旧河道を中心とする低地部であると想定される。

### 6 まとめ

対象地では、弥生時代、奈良時代を中心とする埋蔵文化財包蔵地を確認した。周辺の字名から「藤ノ木遺跡」として新規登録し、事業実施に当たっては、適切な保護措置をとることが必要である。(山元)



第21図 トレンチ位置図 (1/1,000)



写真1 第1トレンチ中央部掘立柱建物  
検出状況 (南から)



写真2 第1トレンチ南端土層状況 (西から)



写真3 第2トレンチ完掘状況(西から)

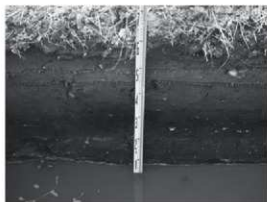


写真4 第2トレンチ土層堆積状況(南から)



写真5 第3トレンチ完掘状況(東から)



写真6 第3トレンチ東肩溝検出状況(南から)



写真7 第4トレンチ完掘状況(西から)



写真8 第4トレンチ完掘状況(南から)

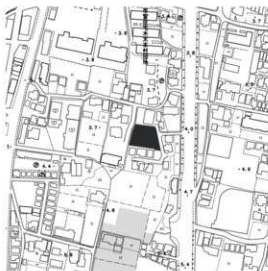
## 20. 木太町小原地区

- 1 所在地 高松市木太町
- 2 調査期間 令和6年5月24日
- 3 調査担当者 山元 敬裕
- 4 調査の原因 宅地分譲工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周知の埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」に隣接することから、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。試掘調査は対象地の北と南の2筆に対して、2本のトレンチを設定して行った。いずれのトレンチにおいても地表面から0.14～0.18mで遺構面と想定されるにぶい黄橙色シルトを確認した。地山面上で精査を行ったが、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(山元)



第22図 調査地位置図(1/5,000)

## 21. 国分寺町池下地区

- 1 所在地 高松市国分寺町新名
- 2 調査期間 令和6年6月3日～6月4日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は国分寺町新名字池下に所在する。事業者からの試掘依頼を受け、調査を実施した。対象地は鷲ノ山山麓の谷部に位置する。

現状は、2面の畑であり、東側の畑の地表面は西側の地表面より約0.6m低い。試掘調査に当たり4本のトレンチを設定した。対象地では、甘土、床土の下に、灰白色極細砂～シルト層（I層）が堆積する。I層の下は、各トレンチで堆積層が異なり、白色、黄色、灰色等のシルト～極細砂層を複数層挟み、地山（黄色系シルト～極細砂）となる。地山の深さは、地表面から0.6～1.4m程度である。地山上面は凹凸がみられ、当該地は安定的な生活域ではなかった可能性がある。地山上面が遺構面となり、1トレンチでピット1基、4トレンチで溝1条を検出した。両方発掘したが、遺物は出土しなかった。時期は、地山より上の堆積層に中世以降の遺物が含まれないため、中世以前に遡る可能性もあるが、遺物の量が少なく、詳細な時期は不明である。

### 6 まとめ

対象地では確実に中世以前に遡る遺構は確認されなかった。また、遺構密度は粗である。従って、埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（品川）



第23図 調査地位圏図 (1/5,000)

## 22. 川島東町神子屋敷地区

- 1 所在地 高松市川島東町
- 2 調査期間 令和6年6月11日～6月12日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」に隣接することから、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。試掘調査は対象地に対して、4本のトレンチを設定した。

いずれのトレンチにおいても、現地表面から0.25m下で旧河道起源の灰黄褐色砂を確認し、この堆積を切り込む南北方向の流路を3本確認した。流路の断面形状が下部で抉れたりしており、流路が切り込むベースが砂であることから、人工的に開削・管理された遺構ではないと想定され、流路からは弥生土器と思われる細片が出土したが時期の特定はできず、弥生時代の一時期に切り込まれ、短期間に埋没したものと想定される。

### 6 まとめ

対象地は以上の試掘調査結果から、埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（山元）



第24図 調査地位圏図 (1/5,000)



## 23. 元山町下香伯地区

- 1 所在地 高松市元山町
- 2 調査期間 令和6年6月15日
- 3 調査担当者 船築 紀子
- 4 調査の原因 仮設校舎建設工事
- 5 調査の概要

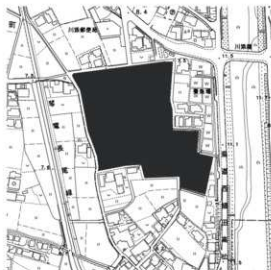
対象地は元山町に所在する。春日川の中流域の左岸に位置し、現状は高松市立協和中学校のグラウンドである。事業者から試掘調査の依頼を受け調査を実施し、トレンチを1本設置した。

対象地では、グラウンド造成土(層厚約0.5m)の下に暗灰色シルト質極粗砂～細礫(層厚約0.2m)が堆積し、その下層に黄褐色極粗砂～細礫と褐シルト混じり極粗砂～細礫が堆積する。黄褐色極粗砂～細礫と褐シルト混じり極粗砂～細礫の上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物とも確認できなかった。

遺構検出面は河川の自然堆積層の可能性が高かったため、断割調査の実施を試みたが、著しい湧水があり安全が確保できないと判断し、下層確認は中止した。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(船築)



第25図 調査地位置図 (1/5,000)

## 24. 十川東町城上地区

- 1 所在地 高松市十川東町
- 2 調査期間 令和6年6月29日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 住宅(駐車場)建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、十河城跡に隣接する。事業者の依頼を受け、住宅建設工事のうち駐車場として切土を行う範囲について試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、複数の水平堆積層が認められ、現地表面から約0.7mの深さで灰黄褐色シルトの堆積層を確認した。堆積層を掘削し、明黄褐色シルトの地山上面で遺構検出を行ったところ、トレンチ南端近くで幅0.2m、深さ0.05mの溝を確認したほか、溝の北0.5mで北側へ下る灰黄褐色シルトの堆積を確認した。この層からは、土師器片が少量出土した。

試掘調査の結果、遺物は少量であるが中世以前と考える遺構を確認した。確認した遺構は十河城跡との位置関係から郭の一部であると考えられる。

### 6 まとめ

対象地における今回の試掘調査結果から、周知の埋蔵文化財包蔵地「十河城跡」として追加登録し、事業実施に当たっては、適切な保護措置をとることが必要である。(山元)



第26図 調査地位置図 (1/5,000)

## 25. 太田下町須川地区

- 1 所在地 高松市太田下町
- 2 調査期間 令和6年7月4日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川遺跡」に隣接する。調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.7mの深さで黒褐色中粒砂混じり細粒砂層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。ただし、調査面積が矮小であるため、対象地全体の埋蔵文化財の包蔵状況については不明である。(梶原)



第27図 調査地位位置図 (1/5,000)

## 26. 条里跡・横井城跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和6年7月26日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 駐車場造成工事
- 5 調査の概要

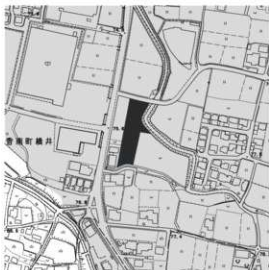
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」「横井城跡」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.3mの深さで黄褐色細粒砂混じりシルト層の地山が認められた。対象地の中央部には砂層が認められ、その上面に遺構が形成されることから、対象地の中央部には幅20m以上の旧流路が流れていたこと、それが埋没し地表が安定してから遺構が形成されたことが明らかになった。

地山上面で、ピット16基と不明遺構1基を検出した。ピットの埋土は地山混じりの黒褐色シルトで、全て完掘したが時期不明の土器片1点と柱材しか出土しなかった。

対象地の北側は「横井城跡」として登録されているため、これらの遺構が中世城館に伴うものかについて検討する。讃岐における中世の上位階層の屋敷地は大きいもので一辺60m、小さいもので一辺30mの方形区画溝をもつ。本調査では南北方向に2本のトレンチが食い違うように約65mの長さで設定した。そのため、屋敷地であれば区画溝が検出されるはずだが、本調査では認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、中世以前に遡る遺構・遺物は認められなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第28図 調査地位位置図 (1/5,000)

## 27. 史跡天然記念物屋島

- 1 所在地 高松市屋島東町
- 2 調査期間 令和6年7月29日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 展示施設改修工事
- 5 調査の概要

対象地は「史跡天然記念物屋島」内に位置する。展示施設改修工事が計画されており、現状変更の判断材料を得ることを目的に展示施設の南側にトレンチを1箇所設定し、重機を使用して確認調査を実施した。

確認調査では、現地表面から深さ0.2mが盛土で、その下に屋島山上の地山である赤褐色シルトを確認した。この層の上面では、遺構・遺物は確認できなかった。さらに下層へ掘り下げを進め、深さ0.85mで灰褐色シルト、深さ1.35mでぶい黄色シルト、深さ1.85mで安山岩の岩盤に到達した。

確認調査の結果、盛土直下で確認した地山である赤褐色シルトでは、遺構・遺物は確認されておらず、史跡屋島に与える影響は軽微であると考えられる。一方、現地表面下1.85mで確認した安山岩は天然記念物屋島を考える上で重要である。

### 6 まとめ

対象地については、現在事業者等と協議中である。史跡天然記念物内に位置することから、今後も適切な保護措置が必要である。(山元)



第29図 調査地位置図 (1/5,000)

## 28. 史跡天然記念物屋島

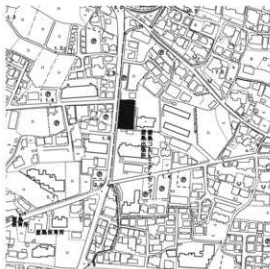
- 1 所在地 高松市屋島中町
- 2 調査期間 令和6年7月30日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 消防屯所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は「史跡天然記念物屋島」内に位置する。消防屯所建設工事が計画されており、現状変更の判断材料を得ることを目的に対象地の4本のトレンチを設定し、確認調査を実施した。対象地は現在、仮設の駐車場として利用されている。

確認調査では、重機を使用して下部の状況を確認した。現地表面から0.1mまでは砂利敷き、0.25～1.3mは花崗土、その下はシルト～粗砂が堆積しており、最深部1.7mまで掘削を行った。花崗土下で確認したシルト～粗砂は低地性の堆積層であり、造成前は湿潤な地形環境であったことが想定され、対象地の東側で実施したコミュニティセンター建替の確認調査のデータとも矛盾しない。

### 6 まとめ

対象地については、史跡天然記念物内に位置することから、今後も適切な保護措置が必要である。(山元)



第30図 調査地位置図 (1/5,000)

## 29. 川島東町北山下地区

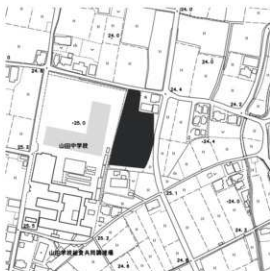
- 1 所在地 高松市川島東町
- 2 調査期間 令和6年7月31日～8月1日
- 3 調査担当者 品川 愛・山元 敏裕
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財ではないが、周知の埋蔵文化財包蔵地「北山下遺跡」に隣接する。事業者の依頼を受けて試掘調査を実施した。試掘調査は、対象地に対して5本のトレンチを設定して実施した。

現地表面から0.45～0.85mで遺構面である黄橙色シルトに達する。第1・2・4トレンチが遺構面まで深く第3・5トレンチ南部では浅いことから、現在の地表面は、北に傾斜するがほぼ水平であるのに対して、旧地形は対象地中央部付近より北側は低くなっていることが想定される。各トレンチでは溝、ピットを確認し、出土遺物から中世の時期の遺構であると想定される。

### 6 まとめ

対象地全域で遺構を確認した。対象地は西側に隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地「北山下遺跡」に遺跡内容が類似することから、「北山下遺跡」として追加登録し、事業実施に当たっては保護措置の対応が必要である。(山元)



第31図 調査地位図(1/5,000)

## 30. 花園町花園地区

- 1 所在地 高松市花園町
- 2 調査期間 令和6年8月6日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 仮設校舎建設工事
- 5 調査の概要

確認調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面から約0.25mの花崗土があり、その下層には約0.8mの造成土が認められる。この造成土には焼けた瓦など近代の遺物が多量に含まれており、高松空襲後に廃棄されたものと考えられる。造成土の下には褐灰色細粒砂、その下には黒褐色中粒砂混じり細粒砂層の地山が認められた。対象地は御坊川(旧香東川)から約200mの位置にあり、地山の土質から旧香東川の氾濫原と考えられる。

地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第32図 調査地位図(1/5,000)

### 31. 林町亀ノ町地区

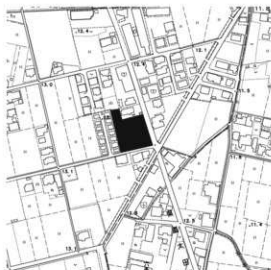
- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和6年8月23日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 研修所新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺部には周知の埋蔵文化財包蔵地が点在する。事業者からの依頼を受けて試掘調査を実施した。試掘調査は、対象地に対して4本のトレンチを設定して実施した。

現地表面から0.15～0.5mで遺構面である明黄褐色シルトに達する。第1・2・4トレンチで溝を確認したが、いずれも埋土の状況から近世以降の時期であると想定される。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地としては認められない。(山元)



第33図 調査地位置図 (1/5,000)

### 32. 伏石町鹿臈地地区

- 1 所在地 高松市伏石町
- 2 調査期間 令和6年9月11日～13日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 都市計画道路木太鬼無線道路改良工事
- 5 調査の概要

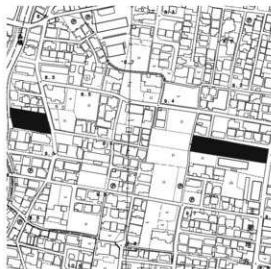
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業面積が広いことから、事業担当課からの依頼を受け、試掘調査を実施した。試掘対象地が東と西に分かれていることから、東区、西区に分けて合計11本のトレンチを設定した。

東区では、花崗土による盛土が厚く、現地表面から0.85mで遺構面である黄灰色～黄褐色シルト～粘土を確認した。確認した遺構は第2トレンチ東端、第3トレンチ西端で確認した南北溝である。幅0.3m、深さ0.1mの規模をもち、埋土は黒褐色シルトである。遺物は土器片が1点出土したのみで、時期の特定はできなかった。

西区では、住居地であったところで、建物基礎を避け、小規模なトレンチを設定した。現地表面から下は1.6～1.85mの盛土、耕作土でその下に地山であるオリーブ灰色シルト及び緑灰色砂礫を確認した。住宅地の造成に伴い、低い地形を周辺部に合わせて盛土を行ったことが判明した。西区では遺構・遺物は確認できなかった。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(山元)



第34図 調査地位置図 (1/5,000)

### 33. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐  
 2 調査期間 令和6年9月26日(確認調査)  
 11月21日～11月22日(発掘調査)  
 3 調査担当者 船築 紀子・上原 ふみ  
 4 調査の原因 個人住宅建設工事  
 5 調査の概要

対象地は「条里跡」内に位置する。確認調査で1本のトレンチを設定し、調査を実施した結果、溝2条を検出した。

その後、事業者から令和6年10月4日付けて文化財保護法第93条第1項の届出が提出され、香川県教育委員会に達達した結果、令和6年10月21日付けて発掘調査の通知があった。

このため、令和6年11月8日付けて事業者と高松市教育委員会・高松市の3者で埋蔵文化財調査協定書を締結し、令和6年11月21日から発掘調査に着手した。

調査区は建物建設予定地内で確認調査で確認した溝が検出できる範囲に設定した。重機掘削ののち、遺構検出を実施した結果、確認調査結果と同様に溝2条を確認した。

調査区内の基本層序は地表面から順に花崗土、盛土、旧耕作土で、その下層が遺構面となる褐色極細砂混じりシルト～粘土層である。

溝1は調査区東側で検出した南北方向に延びる掘方が逆台形を呈する溝である。幅は約0.9～1.3m、深さは北側で0.35m、南側で0.13mで、南側から北に向けて深くなる。埋土は南側で3層に分層でき、上層が灰色極細砂～シルト、下層が灰黄色極細砂(ラミナあり)と灰色極細砂～細砂混じりシルトである。北側では8層に分層でき、上層が灰色シルト～粘土と灰色微細砂～細砂混じりシルト～粘土、灰色微細砂～中粒砂である。溝肩は灰黄色中粒砂混じりシルト～粘土と灰色細砂混じりシルト～粘土である。下層が灰色極細砂混じりシルト～粘土と灰色シルト混じり極細砂～細砂(ラミナあり)、灰色極細砂混じりシルトである。堆積状況から浚渫が行われたと考えられる。遺物は15世紀後半～末と考えられる土器器杯Dが出土した。底径8.2cm、残存器高2.1cmで口縁部分を欠損するがほぼ完形である。全体的に摩滅しているが、調整は外面・内面が回転ナデ、底部が回転ヘラ切りである。

溝2は調査区西側で検出した溝で、調査区中央付近で緩やかに曲り、北西方向に延びる。掘方は逆台形～U字型を呈する。幅は約0.5～0.8mで、深さは北側で約0.2m、南側で約0.08mを測り、北側に向けて深くなる。埋土は北側は灰オリーブ色微細砂混じりシルトで弱いラミナが確認できた。南側は4層に分層でき、上層が灰色シルト混じり微細砂～細砂、中層が灰色微細砂混じりシルト(弱いラミナあり)と灰色細砂混じりシルト、下層が灰色微細砂混じりシルト(ラミナあり)である。遺物は確認調査の際に土器器片が出土したが、詳細な時期は不明である。埋土の状況が溝1と酷似していることから、同時期の溝である可能性が高い。

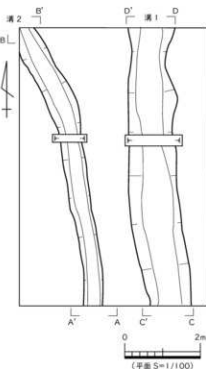
両溝とも流水堆積が確認できたことから、導水施設であった可能性が考えられる。

#### 6 まとめ

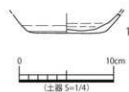
対象地は調査の結果、中世段階に生産域として利用されていたことが明らかになった。中世の遺構・遺物について条里跡に関連するものである可能性がある。なお、本調査をもって当該地における保護措置は完了した。(船築)



第35図 調査地位図(1/5,000)



第36図 遺構配置図(1/100)



第37図 出土遺物(1/4)



写真9 検出状況（北西から）



写真10 完掘状況（北西から）



写真11 溝1北壁断面（南から）

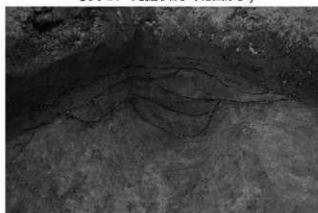


写真12 溝2北壁断面（南から）



写真13 溝1南壁断面（北から）



写真14 溝2南壁断面（北から）

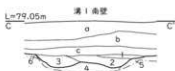


- a. 花崗土
- b. 盛土
- c. 旧耕作土?

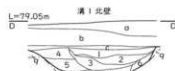
1. 5Y5/2 灰オーブ 微細砂混じりシルト 弱いうすナあり



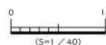
1. 5Y6/1 灰 シルト混じり微細砂～細砂 径2～3cmの地山ブロック3%
2. 5Y5/1 灰 微細砂混じりシルト 弱いうすナあり
3. 7.5Y6/1 灰 微細砂混じりシルト うすナあり
4. 7.5Y6/1 灰 細砂混じりシルト



1. 5Y6/1 灰 極細砂～シルト
2. 2.5Y6/2 灰黄 極細砂 うすナあり
3. 5Y4/1 灰 極細砂～細砂混じりシルト
4. 7.5Y5/1 灰 シルト混じり極細砂～細砂
5. 2.5Y4/2 暗灰黄 中粒砂～極粗砂
6. 2.5Y6/6 明黄褐 粗砂～極粗砂混じりシルト～粘土



1. 7.5Y5/1 灰 シルト～粘土
2. 7.5Y6/1 灰 微細砂～細砂混じりシルト～粘土
3. 7.5Y6/1 灰 微細砂～中粒砂
4. 2.5Y5/1 黄灰 中粒砂混じりシルト～粘土 地山ブロック20%
5. 5Y5/1 灰 細砂混じりシルト～粘土 径3cm程度の地山ブロック10%
6. 5Y6/1 灰 極細砂混じりシルト～粘土
7. 7.5Y4/1 灰 シルト混じり極細砂～細砂 うすナあり
8. 5Y5/1 灰 極細砂混じりシルト
9. 2.5Y5/6 黄褐 中粒砂～粗砂混じり粘土



第38図 遺構断面図 (1/40)

## 34. 多肥上町北原地区

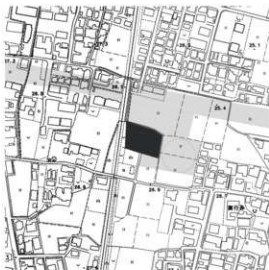
- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和6年4月10日、10月10日
- 3 調査担当者 梶原慎司・宮田匡
- 4 調査の原因 新駅整備事業
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」に隣接する。調査では、3本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地東側では現地表面下約0.4mの深さに灰黄褐色シルト層が認められた。この層は、周辺の調査結果から古代の包含層と考えられる。その下層には黒褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で溝1条を検出した。埋土は灰黄褐色シルトで、遺物は出土しなかったため詳細な時期は不明である。一方、対象地西側では包含層はみられず、現地表面下約0.3mの深さに黒褐色シルト層の地山が確認された。地山上面で土坑2基を検出したが、いずれも遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。

確実に中世に遡る遺構は認められなかったが、周囲の発掘調査の状況を参考にすると、包含層には隣接する多肥廃寺に関連する遺物が多量に含まれている可能性が高い。そのため、4月の試掘が完了した段階では、包含層が分布する対象地東側を周知の埋蔵文化財包蔵地として追加登録した。その後、発掘調査が行われると対象地西側にも遺構が広がることが明らかになったため、10月に再度試掘調査を実施し、対象地の西側で古代の遺構を検出したため、対象地全域を周知の埋蔵文化財包蔵地として追加登録した。

### 6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地を周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」として追加登録した。令和6年8月から10月にかけて開発に先立つ発掘調査を実施した。(宮田)



第39図 調査地位図(1/5,000)

## 35. 西植田町中土居地区

- 1 所在地 高松市西植田町
- 2 調査期間 令和6年6月20日～10月16日
- 3 調査担当者 船菜 紀子・品川 愛
- 4 調査の原因 仮設校舎建設工事
- 5 調査の概要

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの試掘依頼を受け試掘調査を実施した。北側の調査地では東西方向のトレンチを設定して調査を行った(1トレンチ)。1トレンチでは、多数のピットを検出した。複数のピットから弥生土器片が出土しており、弥生時代の集落が形成されていたと考えられる。一方南側調査地では、現在駐車場として利用されている範囲や配管等を避けて南北方向のトレンチを設定した(2トレンチ)。2トレンチでは、現地表面から約0.4m～1.5mの深さに花崗土が厚く堆積していた。南側予定地は丘陵の稜線よりも南側に突き出した形状であり、南側に開析谷が隣接する。周辺地形や2トレンチの掘削深度から南側予定地は開析谷の一部で深く落ち込んでいると考えられ、遺構が存在する可能性は低いと考えられる。

### 6 まとめ

対象地では北側調査地のみ遺構・遺物を確認した。従って対象地北側のみ周知の埋蔵文化財包蔵地「中土居遺跡」として新規登録し、今後対象地内で開発行為が行われる際には適切な保護措置が必要であると考えられる。(品川)



第40図 調査地位図(1/5,000)



## 36. 伏石町狂塵地区

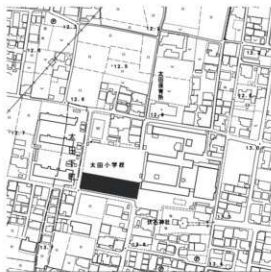
- 1 所在地 高松市伏石町
- 2 調査期間 令和6年8月5日～10月17日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 仮設校舎建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの依頼を受け、調査を実施した。

調査に当たり、対象地内に東西方向の2本のトレンチを設定した。1トレンチでは地表面から約0.9m掘削した深さで地山を検出した。地山は西側では黄色シルト層、東側では砂礫層となる。遺構・遺物は出土しなかった。2トレンチでは地表面から0.9m掘削した深さで、地山の砂礫層が確認された。砂礫層は2トレンチ全面に広がる。遺構・遺物は出土していない。以上のように、1トレンチ東半から2トレンチで砂礫層が検出されており、1トレンチ東半よりも東側には旧河道が広がるものと考えられる。また、1トレンチ西半は地山が黄色シルト層であり微高地が存在する可能性がある。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第41図 調査地位置図 (1/5,000)

## 37. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町吉光
- 2 調査期間 令和6年11月5日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。事業者からの依頼を受け確認調査を実施した。

確認調査に当たり、対象地内に一本のトレンチを設定した(1トレンチ)。1トレンチでは、甘土除去後に全面で砂礫層が検出された。砂礫層は地表下1m以上まで深く堆積する。対象地は香東川の西に隣接しており、砂礫層は香東川から供給されてきたものと考えられる。地形や1トレンチの堆積状況から、対象地は旧河道の一部であったとみられる。砂礫層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

### 6 まとめ

対象地では中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。従って本確認調査で対象地内における埋蔵文化財の保護措置を完了したと考えられる。(品川)



第42図 調査地位置図 (1/5,000)

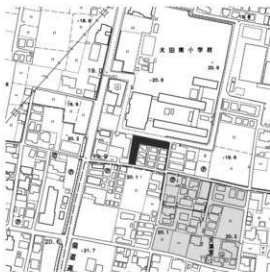
## 38. 太田下町東横田地区

- 1 所在地 高松市太田下町
- 2 調査期間 令和6年11月6日～11月7日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 戸建住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田城跡」に隣接する。調査に当たり、5本のトレンチを設定した。対象地の基本層序は甘土、床土、黒色シルト層、地山（黄色～オリーブ褐色シルト層または砂礫層）である。遺構は黒色シルト層上面と地山上面で検出し、遺構埋土は黒色シルトと灰色シルト、灰色シルトに黒色ブロックを含むものの3種を確認した。埋土が黒色シルトである遺構のうち、2トレンチのSD1からは弥生土器片がまとまって出土しており、弥生時代の遺構であると考えられる。埋土が灰色系の遺構では、4トレンチのSP2から近世の瓦片が出土しており、近世の遺構と考えられる。灰色シルトに黒色ブロックを含む遺構であるSP1については、完掘したが遺物は出土せず、時期不明である。埋土が黒色系の遺構は対象地西側に主に分布する。西側の区画は東側よりも約0.3m高く、微高地上を選んで弥生時代の遺構が形成されていたと考えられる。

## 6 まとめ

調査の結果、主に対象地西側において弥生時代後期の遺構・遺物を確認した。そのため対象地西側を「東横田遺跡」として新規登録した。(品川)



第43図 調査地位図(1/5,000)

## 39. 西八ゼ町清水地区

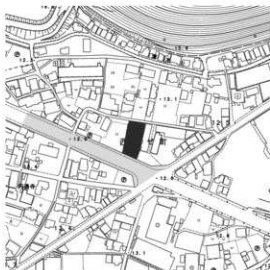
- 1 所在地 高松市西八ゼ町
- 2 調査期間 令和6年11月8日
- 3 調査担当者 梶原 慎司・宮田 匡
- 4 調査の原因 用地売買
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「西八ゼ土居遺跡」に隣接する。調査では、3本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2mの深さで暗褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で、溝3条を検出した。溝の埋土は全て褐灰色シルトで、断ち割りをを行った部分から陶磁器片が出土した。所属時期は近世と考えられる。

隣接する西八ゼ土居遺跡では16～17世紀の屋敷地が検出されており、対象地で検出された遺構は屋敷地と関連する遺構と考えられる。

## 6 まとめ

調査の結果、中世末～近世と考えられる埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地を周知の埋蔵文化財包蔵地「西八ゼ土居遺跡」として追加登録した。(梶原)



第44図 調査地位図(1/5,000)

## 40. 十河城跡

- 1 所在地 高松市十川東町
- 2 調査期間 令和6年11月25日～11月28日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 寺院庫裏新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「十河城跡」である。事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。確認調査は、庫裏新築予定地の範囲に含まれる中庭に2箇所のトレンチを設定し、人力掘削で遺構・遺物の確認を行った。各トレンチの状況は以下のとおりである。

第1トレンチ 調査対象地の中央付近に設定した東西トレンチである。トレンチ内の土層は、1層は花崗土による盛土である。2～5、7層は、浅黄色及び黄褐色シルト～砂混じりシルトであり、近世の整地層である。6、8層は黒褐色シルト、灰黄褐色シルトで中世の堆積土。9層は地山である明黄褐色シルトである。遺構はトレンチ中央部で円形のピットを確認した。遺物は出土していない。

第2トレンチ 対象地の西部に設定した南北方向のトレンチである。トレンチ土層は、1層は花崗土による盛土である。2～5層は暗灰黄色及び黄褐色シルトである。この層からは染付、土師器等が出土している。7層は黄灰色砂混じりシルトである。第1トレンチ同様、近世の整地層である。6、8～9層はピットの埋土である。遺構はトレンチ中央部で壁面にかかるピットを確認した。ピットの規模は半分がトレンチ外に広がるので全体像は不明であるが、ほぼ円形を呈するものと想定される。ピットからは備前焼播鉢、土師器小皿、不明鉄製品等を確認した。備前焼播鉢の特徴から、16世紀末頃の年代が考えられる。

2箇所に設定したトレンチにより、対象地の下部状況が判明した。1層の花崗土は近代以降の盛土と考えられ、水平の層が染付等の出土から近世以降の称念寺に関する整地層であると考えられる。水平の層より下の土層からは備前焼、土師器の出土に限定され、これより下が十河城跡に関する土層であると考えられる。現在の中庭の地表は、ほぼ平坦であるが、中庭を出て東側は東へ傾斜しており、十河城が機能していた時期も同様の地形であったと想定される。

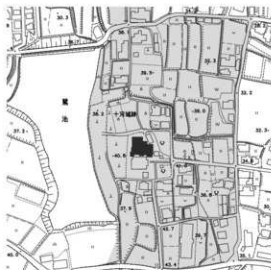
確認調査の結果、各トレンチで遺構・遺物を確認した。出土遺物等から、検出した遺構は十河城跡に関するものであると想定される。

土層状況から、近世以降に頻繁な整地が行われていたことが判明した。

### 6 まとめ

対象地は確認調査の結果から、中世の埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。事業の実施に当たっては周知の埋蔵文化財包蔵地「十河城跡」に関する遺構に対して、適切な保護措置が必要である。

(山元)



第45図 調査地位置図(1/5,000)



写真15 第1トレンチ完掘状況(西から)



写真16 第1トレンチ土層状況(北から)



写真17 第2トレンチ完掘状況(北から)



写真18 第2トレンチ土層状況(東から)

ふりがな	たかまつしないいせきはつつちょうさがいほう
書名	高松市内遺跡発掘調査概報
副書名	令和6年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第256集
編著者名	松築 紀子・山元 敬裕・高上 拓・梶原 慎司・品川 愛・宮田 匡・磯崎 福子(編)
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 Tel.087(839)2660
発行年月日	令和7年3月31日

番号	ふりがな 所収遺跡名	調査地	市町村	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査後の措置
1	さんじょうちようあくしよちく 三条町愚所地区	三条町	37201		34° 18' 40"	134° 02' 36"	R5.12.18	80/ 1357㎡	包蔵地確認されず
2	えんぞちようかみえんぞちく 円座町上円座地区	円座町	37201		34° 16' 38"	134° 00' 30"	R5.12.19 ～12.20	140/ 4922㎡	包蔵地確認されず
3	たひかみまちはむむらちく 多肥上町本村地区	多肥上町	37201		34° 17' 51"	134° 03' 04"	R5.12.26 ～12.27	30/ 150㎡	包蔵地確認されず
4	みまやちようしよかつちく 御魔町正勝地区	御魔町	37201	11024	34° 18' 26"	133° 59' 13"	R6.1.22	80/ 2214㎡	包蔵地確認 「正勝遺跡」新規登録
5	じょうりあと 糸里跡	香南町 吉光	37201	50017	34° 14' 55"	134° 00' 56"	R6.1.23	20/ 200㎡	包蔵状況確認されず
6	みらにちようげしよかみちく 三谷町下所上地区	三谷町	37201	11020	34° 16' 50"	134° 04' 13"	R6.2.28	18/ 400㎡	包蔵地確認 「三谷下所上遺跡」 追加登録
7	じょうりあと 糸里跡	香南町 池内	37201	50017	34° 14' 59"	134° 00' 19"	R6.2.28	56/ 500㎡	包蔵状況確認されず
8	いいがにしろごうづか 飯田西7号塚	飯田町	37201	10099	34° 19' 03"	133° 59' 45"	R6.3.7	23/ 90㎡	包蔵状況確認されず
9	ひぐしまつばやしせいせき 日暮・松林遺跡	多肥上町	37201	10806	34° 17' 45"	134° 03' 28"	R6.3.18	6/ 230㎡	包蔵状況確認されず
10	こくぶんじちようこくぶちく 国分寺町国分地区	国分寺町 国分	37201		34° 18' 12"	133° 56' 48"	R6.4.13	65/ 849㎡	包蔵地確認されず
11	はやしちようひらつかちく 林町平塚地区	林町	37201		34° 18' 30"	134° 03' 56"	R6.4.15	71/ 1213㎡	包蔵地確認されず
12	たひしもちまがらくちく 多肥下町瓦礫地区	多肥下町	37201		34° 17' 50"	134° 02' 52"	R6.4.11～ 5.7	373/ 3926㎡	包蔵地確認されず
13	さいせじちようあと 雑貫城跡	番町	37201	10882	34° 20' 18"	134° 02' 36"	R6.5.9	10/ 1157㎡	包蔵状況確認 「雑貫城跡」
14	つづきじちようあと 筑城城跡	鶴町	37201	10085	34° 19' 41"	134° 00' 19"	R6.5.11	20/ 830㎡	包蔵地・包蔵状況確 認 「筑城城跡」追加登録
15	じょうりあと 糸里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14' 53"	134° 00' 33"	R6.5.14	16/ 239㎡	包蔵状況確認されず
16	じょうりあと 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14' 19"	134° 01' 14"	R6.5.15	16/ 1034㎡	包蔵状況確認されず
17	じょうりあと 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14' 39"	134° 00' 58"	R6.5.16～ 5.17	140/ 1700㎡	包蔵状況確認されず
18	むれちようなかやまだちく 牟礼町中山田地区	牟礼町 原	37201		34° 19' 21"	134° 09' 13"	R6.5.18	8/ 50㎡	包蔵地確認されず

番号	ふりがな 所収遺跡名	調査地	市町村	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査後の措置
19	おおたしちまふじのきちく 太田下町藤ノ木地区	太田下町	37201	11025	34° 18' 11"	134° 03' 00"	R6.5.22～ 5.23	107/ 2767㎡	包蔵地確認 「藤ノ木遺跡」 新規登録
20	きたちようおはらちく 木太町小原地区	木太町	37201		34° 18' 57"	134° 04' 23"	R6.5.24	50/ 511㎡	包蔵地確認されず
21	こくぶんじちようけしたちく 国分寺町池下地区	国分寺町 新名	37201		34° 16' 49"	133° 57' 08"	R6.6.3～ 6.4	49/ 1157㎡	包蔵地確認されず
22	かわしまひがしまちみやしきちく 川島東町神子屋敷地区	川島東町	37201		34° 16' 36"	134° 05' 33"	R6.6.11～ 6.12	63/ 2607㎡	包蔵地確認されず
23	もとやまちようしちこはくちく 元山町下香伯地区	元山町	37201		34° 18' 25"	134° 05' 09"	R6.6.15	10/ 19456㎡	包蔵地確認されず
24	そがわひがしまちしるかみちく 十川東町城上地区	十川東町	37201		34° 15' 44"	134° 06' 27"	R6.6.29	5/ 438㎡	包蔵地確認 「十河城跡」追加登録
25	おおたしちまふじがわちく 太田下町須川地区	太田下町	37201		34° 18' 35"	134° 03' 00"	R6.7.4	2.3/ 500㎡	包蔵地確認されず
26	じようりあじちよじちよあじ 糸里跡・横井城跡	香南町 横井	37201	50017・ 50020	34° 14' 38"	134° 00' 40"	R6.7.26	104/ 2056㎡	包蔵状況確認されず
27	しせきてんねんきねんぶつやしま 史跡天然記念物屋島	屋島東町	37201		34° 21' 28"	134° 05' 59"	R6.7.29	13 ㎡	包蔵地確認されず
28	しせきてんねんきねんぶつやしま 史跡天然記念物屋島	屋島中町	37201		34° 20' 38"	134° 06' 04"	R6.7.30	85 ㎡	包蔵地確認されず
29	かわしまひがしまちきたやまたちく 川島東町北山下地区	川島東町	37201	10987	34° 16' 05"	134° 05' 37"	R6.7.31～ 8.1	110/ 3849㎡	包蔵地確認 「北山下遺跡」 追加登録
30	はなやのちよはなやのちく 花園町花園地区	花園町	37201		34° 20' 01"	134° 03' 28"	R6.8.6	10/ 1000㎡	包蔵地確認されず
31	はやしちようかめのみちちく 林町龜ノ町地区	林町	37201		34° 17' 55"	134° 04' 42"	R6.8.23	72/ 1952㎡	包蔵地確認されず
32	ふせいしちようろくたんじちく 伏石町鹿蹄地地区	伏石町	37201		34° 19' 05"	134° 03' 09"	R6.9.11～ 9.13	140/ 3250㎡	包蔵地確認されず
33	じようりあじ 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14' 35"	134° 01' 04"	R6.9.26, 11.21～ 11.22	24/ 522㎡	包蔵状況確認 「糸里跡」
34	たひかみまきはらちく 多肥上町北原地区	多肥上町	37201	10978	34° 17' 40"	134° 02' 43"	R6.4.10, 10.10	75/ 800㎡	包蔵地確認 「多肥北原西遺跡」 追加登録
35	にしうまたちようなかどいちく 西植田町中土居地区	西植田町	37201	11026	34° 14' 21"	134° 04' 44"	R6.6.20～ 10.16	22/ 16669㎡	包蔵地確認 「中土居遺跡」 新規登録
36	ふせいしちようちゆうちゆうちく 伏石町扭鹿地区	伏石町	37201		34° 18' 44"	134° 03' 03"	R6.8.5～ 10.17	20/ 1600㎡	包蔵地確認されず
37	じようりあじ 糸里跡	香南町 吉光	37201	50017	34° 15' 00"	134° 01' 10"	R6.11.5	18/ 353㎡	包蔵状況確認されず
38	おおたしちまふじがわちよこたちく 太田下町東横田地区	太田下町	37201	11027	34° 18' 20"	134° 02' 37"	R6.11.6～ 11.7	58/ 830㎡	包蔵地確認 「東横田遺跡」 新規登録
39	にしはげまちしみずちく 西ハゼ町清水地区	西ハゼ町	37201	10825	34° 19' 16"	134° 02' 10"	R6.11.8	50/ 923㎡	包蔵地確認 「西ハゼ土居遺跡」 追加登録
40	そごうじちよあじ 十河城跡	十川東町	37201	11055	34° 15' 39"	134° 06' 19"	R6.11.25 ～11.28	2/ 245㎡	包蔵状況確認 「十河城跡」

番号	ふりがな 所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物
1	さんじょうちょうあくしやく 三景町悪所地区	-	-	溝か	-
2	えんざちょうかみえんざちく 円座町上円座地区	-	不明	落込み(旧河道)、溝	-
3	たひかみまちほんむらちく 多肥上町本村地区	塚	近世 以降	塚(墓地)	-
4	みまやちょうしょうかつちく 御鹿町正勝地区	集落跡	中世	溝、ピット	須恵器・土師器片 コンテナ 1/2箱
5	じょうりあと 条里跡	-	-	-	-
6	みたにちょうげふしよかみちく 三谷町下所上地区	集落跡	古墳・ 中近世	ピット、土坑	土師器片 ビニール袋 1袋
7	じょうりあと 条里跡	-	-	-	土器片 ビニール袋 1袋
8	いいたにこくごうつか 飯田西7号塚	塚	不明	-	-
9	ひぐらしまつばやしせき 日暮・松林遺跡	-	-	-	-
10	こくぶんじちょうこくぶんちく 国分寺町国分地区	-	不明	ピット	土師質土器片 ビニール袋 1袋
11	はやしちょうひらつちく 林町平塚地区	-	不明	溝	-
12	たひしもまがらくちく 多肥下町瓦礫地区	-	不明	溝、ピット、不明遺構	土師器片、須恵器片 コンテナ 1箱
13	さいかじょうあと 雑賀城跡	城館跡	古代・ 中世	溝	土師器、須恵器、瓦器、瓦、陶磁器等 ビニール袋 4袋
14	つづきじょうあと 筑城城跡	城館跡	中世	溝、ピット、土坑	陶磁器片 ビニール袋 2袋
15	じょうりあと 条里跡	-	不明	ピット	-
16	じょうりあと 条里跡	-	近世 以降	溝	磁器片 ビニール袋 1袋
17	じょうりあと 条里跡	-	中世	溝	土師器片、瓦片 ビニール袋 3袋
18	おれちようなかやまだちく 牟礼町中山地区	-	-	-	-
19	おおたしもまふじのきちく 太田下町藤ノ木地区	集落跡	弥生・ 古代	竪穴建物、掘立柱建物、 溝、ピット、旧河道	弥生土器片、須恵器片、土師器片 コンテナ 1/2箱
20	きたちょうおほらちく 木太町小原地区	-	-	-	-
21	こくぶんじちょういけしたちく 国分寺町地下地区	-	不明	溝、ピット	土器片、石器片 ビニール袋 3袋
22	かわしまひがししまみこやしちく 川島東町神子屋敷地区	-	弥生?	溝	弥生土器片 ビニール袋 1袋
23	もとやましようしもこほちく 元山町下番伯地区	-	-	-	-
24	そがわのがししまちしろかみちく 十川東町城上地区	城館跡	中世	溝	土師器片 ビニール袋 1袋
25	おおたしもまさがわちく 太田下町須川地区	-	-	-	-
26	じょうりあとよこいじょうあと 条里跡・横井城跡	集落跡	近世	土坑、不明遺構	土器片、陶磁器片 ビニール袋 2袋
27	しせきてんねんきねんぶつやしま 史跡天然記念物屋島	-	-	-	-
28	しせきてんねんきねんぶつやしま 史跡天然記念物屋島	-	-	-	-
29	かわしまひがししまきたやましたちく 川島東町北山下地区	集落跡	中世	溝、ピット	土師器片、石 ビニール袋 4袋
30	はなぞのちょうはなぞのちく 花園町花園地区	-	-	-	-

番号	ふりがな 所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物
31	はやしちようかめのみちちく 林町亀ノ町地区	-	近世以降	溝、ピット	土師器片 ビニール袋 1袋
32	ふぜいしちようちくたんじちく 伏石町鹿籠地区	-	不明	溝	弥生土器片、陶器片、瓦質土器片 ビニール袋 2袋
33	じようりあと 糸里跡	糸里跡	中世	溝	土師器片 ビニール袋 1袋
34	たひかみまちきたはらちく 多肥上町北原地区	集落跡	古代	溝、ピット、土坑	土師器片 ビニール袋 1袋
35	にしうえたちようちくどいちく 西植田町中土居地区	集落跡	弥生	ピット	弥生土器片 ビニール袋 5袋
36	ふぜいしちようちゆうしちく 伏石町扭塵地区	-	-	-	-
37	じようりあと 糸里跡	-	-	-	-
38	おおたしちゆうちひかほこちちく 太田下町東横田地区	集落跡	弥生	溝、ピット、土坑、不明 遺構	土器片、瓦片 ビニール袋 4袋
39	にしはげまちしみずちく 西ハゼ町清水地区	集落跡	中近世	溝	土師質土器片、陶磁器片等 ビニール袋 2袋
40	そごうじようあと 十河城跡	城館跡	中世	ピット	瓦片、土師器片、陶器片、磁器片、 鉄製品 コンテナ 1箱

高松市埋蔵文化財調査報告第 256 集

## 高松市内遺跡発掘調査概報

－ 令和 6 年度国庫補助事業 －

令和 7 年 3 月 31 日 発行

編集 / 発行 高松市教育委員会

高松市番町一丁目 8 番 15 号

印刷

株式会社 美巧社







